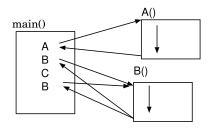
C++プログラミングI

関数定義と変数のスコープ

成蹊大学理工学部

関数とは

- ▶ 一連の処理に名前をつけたもの
- ▶ プログラムを区切って読みやすくする
- ▶ 用途:
 - ▶ 似たような処理を一つにまとめる
 - ▶ 一般的な関数を作り再利用(ライブラリ関数)
 - ▶ プログラムの管理を関数ごとに



関数定義

- ▶ 戻り値の型、関数名、仮引数
 - ▶ 仮引数: 呼び出される関数側の引数
 - ▶ 実引数: 呼び出し側で指定する引数
- ▶ 値渡し:実引数の値が仮引数に渡される(代入)
- ▶ 戻り値:return 文で関数が返す値を指定
 - ▶ 戻り値は呼出し側で変数に代入できる
 - ▶ 関数呼び出しは式を構成する変数と同じ場所で指定

```
int sumup(int from, int to)
{
    ...
    return sum;
}
s1 = sumup(1, 10);
int s2 {sumup(s1, s1+10)};
std::cout << sumup(s2, s2+10) << "\n";</pre>
```

void 関数

- ▶ 戻り値のない関数には void を指定する
- ▶ 予約語 void は無効を表す
- ▶ 値指定なしの return を使う

```
void print(int x)
{
   if (x == 0) return;
   std::cout << x <<"\n";
}</pre>
```

関数の引数

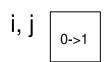
- ▶ 関数の引数は0個でも複数でも良い
- ▶ 引数0個の場合も丸括弧()が必要
- ▶ 同一型の複数引数でもそれぞれに型指定が必要
 - O: int x, int y
 - × : int x, y
- ▶ 実引数には代入可能な式(右辺値)を指定する

```
int zero() { ... }
int one(int x) { ... }
int two(int x, int y) { ... }
double dist(double x, double y) { ... }
int mix(int x, double d) { ... }
```

Ivalue リファレンス

- ▶ リファレンス:参照によってある変数の別名となる
- ▶ リファレンスは Ivalue(左辺値) となれる変数が対象
- ▶ 一度初期化したら他の変数に変更できない

```
int i {0}; // i は左辺値にできる
int& j {i}; // j は i の別名
++ j;
cout << i <<" "<< j <<"\n";
```

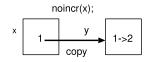


リファレンス引数

- ▶ Ivalue リファレンスを引数に適用
- ▶ 関数の呼び出し先で実引数の変数を変更する

```
void incr1(int& z) { ++z; } // 参照渡し
void noincr(int y) { ++y; } // 値渡し
incr1(x); // x の値が更新される
noincr(x); // x は変更なし
```





変数の入れ替え関数 (swap)

▶ 2つの実引数の値を入れ替える

```
void swap_int(int& a, int& b)
{
   int t {a};
   a = b;
   b = t;
}
swap_int(x, y); // xとyの値の入れ替え
std::swap(x, y); // ライブラリ関数がある
```

vectorと引数

- ▶ vector 変数の値渡しは全要素のコピー
 - ▶ 要素数が多ければ時間が無視できなくなる
- ▶ 以下のどちらかの参照渡しが望まれる

```
void f(const vector<T>& a); // 実引数変更不可
void f(vector<T>& a); // 実引数変更可
```

main 関数の仮引数

- ▶ コマンド引数の利用
- ▶ 利用には C 配列とポインタの知識が必要
 - ▶ argc:コマンド引数の数,
 - ▶ argv:文字列へのポインタ配列
- ▶ vector<std::string>に変換できる

```
int main(int argc, char *argv[])
{
    // argv(コマンド引数) を a に取り込む
    vector<std::string> a(argv, argv+argc);

    for (const std::string& s : a)
        cout << s <<"\n";
    return 0;
}
```

局所変数のスコープ(有効範囲)

関数の中の変数:局所変数、有効範囲がある

- ▶ {}の範囲をブロックと呼ぶ
- ▶ ブロック内にそのブロック用の局所変数を宣言できる
- ▶ ブロックは内部に別のブロックを持てる(入れ子構造)
- ▶ 内側のブロックの変数名が外側のものと同じならば、 外側を一時的に隠す

例外的なルール

- ▶ 仮引数は関数本体のブロックがそのスコープ
- ▶ 制御文の文末までのスコープ
 - ▶ for 文の初期設定で宣言された変数
 - ▶ if, while, switch 文の条件部で宣言された変数
 - ▶ 複文でない場合は中括弧 ({}) がないので注意

```
for (int i = 0; i < 10; i++) {
    cout << i <<"\n";
}
if (int n = abs(x)) {
    cout << 10/n <<"\n";
}
while (char ch = s[i++]) {
    cout << ch <<"\n";
}</pre>
```

宣言と条件(C++17)

- ▶ if と switch の変数宣言と条件指定
- ▶ 複雑な論理式が指定できる
- ▶ セミコロンで宣言と論理式を区切る

```
if (int z {std::min(x, y)}; z > 10)
    std::cout << z << " is too large\n";

switch (int z {std::max(x, y)}; z*3) {
    case 3: std::cout << "three\n"; break;
    case 6: std::cout << "six\n"; break;
    case 9: std::cout << "nine\n"; break;
}</pre>
```

スコープの利用

▶ 変数のスコープを限定して読みやすいコード作成を!

```
int count1() { // cnt が重要であることが明確
  int cnt {0}:
  for (int i = 1; i <= 100; i++) {</pre>
     if (int x \{(i*i) \% 3\}; x == 0)
       ++ cnt:
  return cnt;
int count2() { // 局所変数の用途が明確でない例
  int i, x, cnt = 0; // 3 個の変数が同等
  for (i = 1; i <= 100; i++) {
     x = (i*i) % 3;
     if (x == 0) ++ cnt;
  return cnt;
```

同じ名前の変数

▶ スコープが異なれば変数に同じ名前をつけても良い

```
void func1() {
  int x{}; // func1 に局所的な変数 x
  x = 1; // func の局所変数を更新
void func2(int x){ // func2に局所的な仮引数 x
  x = 2: // 仮引数 x を更新
int func3(int x){ // 仮引数 x は func3 に局所的
  return x+1; // 戻り値
int main() {
  int x {0}; // main に局所的な変数 x
  func1():
  func2(x+1); // x+1 は実引数
  x = func3(2); // 2 は実引数
```

大域変数

- ▶ 大域変数:関数間で共通に使える変数
 - ▶ 宣言した場所より下側関数で利用できる
 - ▶ 以下では sum, from, to
- ▶ 局所変数:関数の中で宣言された変数
 - ▶ 宣言した場所の関数でだけ利用できる
 - ▶ 仮引数も局所変数

```
int sum {0};  // 大域変数の宣言
int from, to;
void sumup()
{
    sum = 0;  // 大域変数 sum の利用
    for (int i = from; i <= to; i++)
        sum += i;
}
```

変数の名前づけの慣習

- ▶ 局所変数には短めの名前
 - ▶ 使用範囲が限定的のため
- ▶ 大域変数には長めの名前
 - ▶ 使用範囲が広いので混乱を避ける目的

変数の初期値

- ▶ 初期値を指定しない組み込み型の変数
 - ▶ 大域変数は実行開始までに0に初期化される
 - ▶ 仮引数以外の局所変数の初期値は不定
 - ▶ 仮引数は実引数で初期値が指定される
- ▶ ユーザ定義型の変数の初期値はそれぞれで異なる
 - ▶ string型の変数, cin, cout など

大域変数と局所変数の関係

- ▶ 大域変数と局所変数が同じ名前ならば局所変数が優先
- 同じ名前とならないようにする
- ▶ 大域変数はスコープ解決演算子(::)で明示可能

```
int x {0}; // 大域変数
void func1() {
  x = 1; // 大域変数の更新
void func2() {
  int x{}; // 局所変数
  x = 2; // 局所変数の更新
void func3() {
  int x{}; // 局所変数
  ::x = 3; // 大域変数の更新
```